

ウムチョ ムゥイーザ通信 No. 29

ルワンダ語で「良い文化学園」の意味を表します。

「ADESOC」報告 ウムチョムィーザ学園 2011.4.13 チャールズ校長より

3月11日、日本を襲った地震と津波によって、そして福島原発事故によって、日本人の心の痛みをルワンダでも学園一同痛みを分かち合い1日でも早く復興することを願っております。

日本と福島県を襲った惨事は、全世界、その中でもこの学園を揺るがしました。いたるところで、日本人の苦しみと人的損害、日本以外の国に関わる日本の経済の損失を強く感じ、私達、教師、子ども達と保護者は学園内でとても強いショックを受けました。

1994年の内戦から立ち直り、子ども達が学園で学ぶことによって夢を描けるようになったのは、皆さんの支援のおかげと感謝しております。この学校を作ったことによって、さまざまな問題を抱えている子ども達（貧しい子・金持ちの子そして孤児）を受け入れることが出来ました。さまざまな環境の子ども達が一つの教室で学ぶことによって、人権を自然に学び共に生きる社会の担い手に成長してくれることをめざしています。



学園では、「フクシマ」の子ども達の境遇やこの震災の生存者について、また子ども達がどこでどのように勉強するかを知るために話し合いました。私達は祈り、子ども達はメッセージを書き、また保護者と一緒に義援金を集めました。

ルワンダ国民は日本の問題特に原子力発電についてを大変気にかけています。人類にとってとても扱いにくいエネルギーについて今回の事故をきっかけに知ることができました。私達は子ども達に、「日本の科学者が事故を避けるために必ず原発を改善することと、世界中の技術者がそのために日本の科学者をきっと助けるでしょう」と言いました。

ました。

長い間日本からの支援によって建設及び運営されてきた学園でした。しかし、この3月11日の危機、大震災によって日本からの支援だけに頼らず学園の経済的な自立を模索していかなければと思いをあらたにしています。たとえば、日本から贈られたバスが長い間故障中でしたが、今回修理をして結婚式や会合の送迎として収益をあげられるようになってきました。また、学園を卒業した子ども達が自分達でお金を出し合って2009年に奨学金制度をつくり、今回この奨学金によって3人の子ども達（ケファ・イバーテ・ウワマリア）を支援することができました。さらに、オランダのPUMという団体からミシンをいただき、洋裁による職業技術訓練が定着出来つつあります。

「フクシマ」の大惨事が起きる前に、私たちは学園を運営するために世界銀行の融資を受けるため『財務及び経理管理』『人材マネジメント』『教育課程及び学習管理』等の条件をクリアするための準備をしていました。

甚大な悲しみの後、日本は確実に力強さ、決意、我慢強さそして誰もが認める熟練の技術によってすばやく復興するでしょう。

ウムチョムィーザ学園は1994年の民族大虐殺ジェノサイド後の再建のため、ルワンダ国民として、「世界の中で役割のある新しいルワンダ」を作るために希望と信念をもって教育をおこなってゆきたいと思えます。

2011年1月9日～4月6日の学費の納入状況の報告

単位：人 *時価換算による。単位：円

納入状況	幼稚園			小学校						合計	金額
	年少	年中	年長	1年	2年	3年	4年	5年	6年		
補習料							5	14	15	34	23,092
100%	2	7	4	12	5	14	6	14	15	79	546,364
その他	0	2	4	7	4	6	7	3	5	38	171,657
0%	0	7	8	11	8	7	9	18	6	74	0
合計	2	16	16	30	17	27	22	35	26	191	741,113
予算額											1,344,779
不足金額(日本からの支援額)											603,666



ウムチヨムイーザ学園の会計報告 1学期(1月～4月)

〔収入〕

〔支出〕

円換算

項目	金額	項目	金額	項目	金額
学費	741,113	職員への給料	1,362,874	先生へ貸し出し	0
日本からの支援	824,648	設備維持経費	32,657	銀行への返済金	287,935
入学登録料	17,156	通信費	15,447	予備費	0
バス運行収入	6,781	消耗品	41,232	税金	105,782
水販売収入	10,171	車の維持費	22,919		
家畜収入(やぎ・うさぎ)	33,904	研修会議費	47,724		
コピー・印刷収入	24,130	保険料	149,450		
個人寄付	74,589	環境整備費	0		
他の NGO からの寄付	0	その他の経費	0		
ADESOC会費	40,685	備品	76,461		
銀行からの借入れ	678,085	小計	1,748,764	小計	393,717
合計	2,451,262			合計	2,142,481

残金 308,781

福島的小伙伴们は私達の友人であって、大変なときも継続して助けていただきました。国際支援は経済的な面からとらえると、国際支援を受けるにはその国が安定しているから受けることができますが、日本からの支援は今回の大震災によっていつまで続くかわかりません。福島からの今までの支援は友人として毎日の食卓を分かち合っていたように思います。生活も分かち合っています。本当に言葉が見つからないほどいつも見守ってくださって感謝の気持ちを表す言葉が見つかりません。



希望を持てるのは私達が次の若い世代に種をまいた教育が確実に育っているということです。教育は継続がカギです。今回 JICA の青年海外協力隊隊員として学園に来ていただいた佐々木さんには、幼稚園から小学6年生までの子ども達に折り紙や音楽の指導を期待しています。人的な協力によって素晴らしい教育が提供できることに感謝しています。

2010年度決算報告

2011年5月21日（日）に福島市市民活動サポートセンターにて、総会が開催されました。

ここに2010年度の決算を報告いたします。

皆様の支援のおかげで、ウムチョムウイザ学園では、2010年末には4回目の卒業生を送り出すことができました。全員国家試験に合格し、各地の中学校に入学することが出来ました。初めての卒業生は高校に入学するまでになりました。

昨年は特に、世界中で活躍するルワンダ出身ミュージシャンのジャン・ポール・サンプトゥさんと4名のダンサーチームを迎え、当会主催の須賀川市をはじめ、趣旨に賛同していただいた各団体のご協力により国内15ヶ所のコンサートを開催することができました。

【収入の部】

項目	金額	備考
事業	2,844,506	講演 63 回・民芸品販売等
コンサート	8,042,394	7/2～7/18 15ヶ所
会費	375,000	正会員 5000 円×75 人
	380,000	賛助会員 10000 円×38 人
補助金	0	
寄付金等	5,276,365	1円から毎月 25 万円まで
雑収入	475	銀行利子・税還付等
繰越金	1,115,504	
計	18,034,244	

【支出の部】

項目	金額	備考
事業	5,273,758	学園への援助・民芸品の仕入
コンサート	7,292,532	渡航費・滞在費・運営費等
管理	4,997,829	家賃・給料手当・通信費等
計	17,564,119	

【残高】 470,125

470,125 円を 2011 年度へ繰り越します。

2011年度役員紹介

理事長	マリルイズ
副理事長	大河原伸
副理事長	本田啓之
理事	倉持睦子
理事	斎藤照子
理事	大槻美智子
理事	宍戸なつ美
理事	佐藤俊子
監事	大和田紋子

スタッフ 菅野和美
原則として火水木曜日
午前10時～12時事務所勤務

現地「ADESOC」を支援する団体「ルワンダの教育を考える会」としてウムチョムウイザ学園への継続的な支援及び貧しくて進学を諦めざるをえない子ども達を将来にわたって見守り支援していきたいという方針を採択しました。

さらに、今年度から「命を育む教育支援事業」として、妊娠から小学校入学までのサポートシステム作りを現地の人たちと共に考え実践する支援を日本の専門家と共に模索していくことを総会で承認されました。

東日本大震災復興支援にも本会としてできるとを精一杯関わっていきたいと思います。

初めてのルワンダ

JICA青年海外協力隊隊員 佐々木信恵

まず初めに、今回東日本大震災により被災された皆様に、心からお見舞いを申し上げます。また、被災地等におきまして、救援や復旧支援など様々な活動に全力を尽くしていらっしゃる方に、深く敬意と感謝の意を表すとともに、一日も早く復旧なされますよう心よりお祈り申し上げます。

3月11日、震災があった日、青年海外協力隊隊員として派遣される前の訓練を2ヶ月間福島県で行っていた最終日でした。私や今回一緒にルワンダへ



来た同期隊員6名をはじめ、3月に他の国へ派遣予定だった隊員たちもみんな、福島で震災を体験し、その後日本が大きな被害を受けている中海外へボランティア活動に行くということに複雑な思いを抱え、派遣の日を迎えました。しかし、だからこそ私たちが今ここにいる意味をしっかりと心に刻み、これからの2年間自分達にできることを、精一杯活動していきたいと思っています。

私にとって人生はじめてのアフリカの地・ルワンダ。ここへ来てはじめて思ったことは、町がきれい、ということです。シンガポールを目指していると言われていただけあってゴミも少なく、近隣諸国から訪れた人は驚かれるそうです。そして緑が豊かで気候がいい！暑すぎず、寒すぎず、過ごしやすい国だなという印象を持ちました。

1ヶ月間のホームステイ、ルワンダ語の語学訓練を受けて、5月よりウムチョムイーザ学園で活動させていただいています。はじめて学園を訪れた日、中庭に子どもたちが集まり、私を待っていてくれました。「センセイ、オハヨウゴザイマス」と、日本語のあいさつから始まり、たくさんの日本の歌を歌ってくれました。先生がたたく太鼓のリズムにあわせて、のびのびと歌ったり踊ったりする子どもたち。そんな子どもたちの生き生きとした姿、キラキラした笑顔に圧倒され、胸一杯で1日目を終えました。前任の方たち2人が、学園ととてもよい関係を築いてくださったおかげで、子どもたちも先生たちも温かく私を迎え、受け入れてくれて、活動が始まってまだ1ヶ月ですが、毎日元気いっぱいに通ってくる子どもたちと楽しい日々を過ごしています。

現在は幼稚園で日本語の歌や音楽、折り紙等の制作活動を幼稚園の子どもたちに教えています。子どもたちは、ピアノに合わせて歌ったり、折り紙で何かを作ったりすることが大好きで、「先生、ピアノ弾いて！」「今日は折り紙するの！？」と、毎回心待ちにしてくれています。何か新しいことを経験した時の子どもたちの表情はとても輝いていて、やりがいと喜びを感じています。

小学校でも、毎週1回クラブ活動があり、その中でJAPANClub といって日本について学ぶクラブがあるので、これからはその時間を使って小学生にも日本語や折り紙、日本から送られているピアノやリコーダーを使って音楽の楽しさを伝えていけたらと思っています。



避難所にルワンダコーヒーを

「ホッと一息 心から笑える日を願って」

会員 日垣緑

5月22日(日)私たちは、福島市にある避難所になっている「パルセ飯坂」にあたたかいルワンダコーヒーを届けに出かけました。

玄関前ではすでにお昼の喜多方ラーメンの炊き出しの準備がはじまっていました。一時は1000人近い被災者も90人余りに。当時は、歩くスペースが30cmくらいしかなかったそうです。今では各々のスペースに余裕がありますが、2ヵ月半経った今でも敷物の上にはお布団と生活用品が入っている数個のダンボール。目隠しの衝立もない生活。せめてイスとテーブルで食事をする場所は作れないのか？と疑問に思いました。



私たちがコーヒーとクッキーを配っていると、「これ食べな」と昼食用に配られた夏みかんを持ってきてくれたり、お茶やお菓子をいただいたり、私たちを気遣っていただき、かえって恐縮してしまいました。

午後からは、高校生ボランティアが、バルーンアートや折り紙を持って子ども達と遊びはじめると、とても賑やかで楽しそう、その声につられて大人たちも明るい笑顔を見せてくれます。避難所で知り合ったという仲良し三人組も「わあ、ももりん(福島市のマスコット着ぐるみ)かわいい、一緒に写真を撮ろう！」とパチリ。「ももりんと写真撮っていい誕生日になったね」そこで、みんなで「ハピバスティー トウユー久子さん」の合唱、今日で75歳になった久子さんは本当は息子さん夫婦とお孫さんにお祝いしてもらいたかったと思います。それでも「みんなに祝ってもらって幸せだ」と笑ってくれました。

実際避難所で生活している方々は、津波で家を流されたり親戚家族を失ったりと辛い体験をした方ばかり、皆さんが心から笑える日が来ることを祈るしかない私たちですが、あたたかいコーヒーを届けることで、ほんの少しでもホッとできるひと時を過ごしていただければという思いで、これからも出来ることを続けていきたいと思っています。

東日本大震災応援フリーマーケットin会津若松市北公民館 6月4日(土)



理事の宍戸さん
も家族で参加

